

第1回東京駅周辺高精度測位社会プロジェクト検討会
議事要旨

1. 日時

2014年9月10日水曜日 14時～16時

2. 場所

株式会社野村総合研究所 丸の内総合センター 8F 会議室

3. 議事内容

(全体討議)

- 現実に、オリンピック・パラリンピックが近い未来で見えているため、具体のサービスにつなげることが重要である。
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピックが大きな目標になる。オリンピックそのものを成功させることだけでなく、日本の技術やサービスを海外にアピールするショールームという観点も重要である。
- ショールームとしての活用するのであれば、技術の海外展開や国際観光誘致戦略との整合性について、十分留意すべきである。
- 情報の整備や更新の検討だけでなく、実際に技術をサービスとして実現する際の課題である、どの情報をオープンにして、どの情報をクローズするか、などの運用に関する検討もあわせて行って頂きたい。
- 検討会の出口としてオープンデータの活用が重要である。オープンデータのムーブメントの勢いを、このプロジェクトでも取り入れていくと、アイデアが大いに広がるのではないかと。
- この検討会は、空間情報インフラを国家のインフラとして、公共投資を含めた運営モデルの検討が行われるものと考えている。

(防災分野への展開について)

- 屋内空間の災害は、屋外に比べて非常に危険である。消防や防災センターは地下街を対象に非常時の詳細な地図をすでに作成し、突入時の計画を策定しているようだ。防災分野で位置情報を活用する場合は、これらの機関との連携も検討

する必要がある。

(実証実験について)

- これまでの測位に関する実証実験の成果や現在進行している他の実証実験と競合せず連携し、今回の実証により明らかにすべきことを具体的にしていきながら効率的な実証実験を行って欲しい。
- 現在想定されている実証は、現行技術の検証が中心となっているが、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けてどのようなサービスの実現を目指すのか、技術があることでどのようなサービスが実現するかという観点も重要である。
- 東京駅周辺は非常に多くの方々の移動の結節点であるため、想定を超えた事態が発生する懸念がある。人々の安全性や設備に求められる要件など、大変気になるところである。

(運用検討について)

- ビジネスモデルやサービスの検討の際には、来場者数の増加や、売上の増加に加えて、コストが削減できるといった業務効率化の分野にも着目すべきである。
- 実証実験だけで終わらないように、次につながる仕組みを考えて欲しい。

以上